

■安宅 由花(あたけ ゆうか) 中学三年生「人間」

元気な女子中学生で考えるよりも先に行動するタイプ。ハル曰く、凶々しく凶太いらしいが、本音はなかなか言えない繊細さをもつ。

暗記モノの教科が不得意(特に歴史)。運動部なので運動神経はよい。高校生になったら少女漫画のような恋をしたいと夢見てる。ちなみに恋愛対象は年上のみで同年代・年下に興味なし。

母子家庭で母親の代わりに家事全般を担当しているため自活能力は高い。三歳下の弟・俊(すぐる)がいる。

■ハル 見た目は由花と同年代「妖」

狭間の森の守人を務める少年。髪も肌も透けるように白く、人目を惹く美しい容姿とは裏腹に毒舌。冷めた性格をしているが、森で迷った由花を自分の庵で保護するなどの優しさを持つ。本人は無自覚だが、だいぶ人間の文化(ただし戦前)に影響を受けている。かつて、妖が見える人間との交流から人間に対して、一種の憧れや愛情を抱いているがこちらも無自覚。

桜の木の化身で火と虫が大の苦手。元々家事能力は低いが、火が苦手なため料理の腕前はさっぱり。神聖なご神木から削り作られた横笛の音で、妖たちを散らすことができる。

■イブキ 見た目は二十代後半〜三十代前半「妖」

狭間の森を守る天狗。ただし伝承のように顔は赤くなく、鼻も長くない。背中から黒い翼が生えている以外は、非常に人間に近い姿をしている。ただ、常に目から口元までの仮面をかぶっているため素顔は見えない。

竹を割ったような豪快な性格で、細かいことは気にせず面倒見もいいため、自然と周囲の兄貴分に。大昔から生きており、人間の世にもちよいちよい首を突っ込んでいる様子。

風を操る能力と呪術系の知識・技に長けている。

■山の主(やまのぬし) 見た目は妙齡の女性「妖」

狭間の森を統べる妖。見た目は豊満な体に艶やかな衣装を身にまとった姫君風。はるか昔から生きており、現世から

森を切り離す結果を形成するなど、並外れた力を持つ。
炎を操る能力に長けており、その正体は鬼ではないか、竜ではないかなど諸説あるが山の主の本来の姿、名前を知るものはいないという。

■ テン [妖]

スズメが天狗のコスプレをしているような姿。手のひらサイズのマスコットの存在。
イブキを親びんと慕う守人の一匹。ハルのことは下に見ているが、逆にバカにされている。

騒がしくそそっかしい性格で、しょっちゅうミスしているトラブルメーカー。ビビリのくせにビッグマウスで。力は弱くそよ風くらいしか起こせない。

妖になる前はケチな野党で、襲った商人に返り討ちにされ死亡。その後、妖へ転化した。その名残か綺麗な女性が好き。

■ ヒグミ 見た目は老女 [妖]

ボロ布をまとい、杖をついて歩く姿は人間の老女だが、一つの体に二つの同じ頭を持つ。片方は口汚く、片方は丁寧な物腰。普段は井戸の中で暮らしているため、常にびちゃびちゃで湿気のあるところが好き。大の人間嫌いである。

手に持つ鏡は遠くのものや人の心も覗ける千里眼のような能力をもつ。また、空間移動の能力もあるようだが詳細は不明。テンからは双子ババアと呼ばれ嫌われている。

存在している年月だけなら山の主を超えており、彼女の相談役。

■ 位田 美紗季(いだ みさき)

■ 母

■ 弟

■ ???

■ おばさん1

■ おばさん2

■ 先生

